

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<ul style="list-style-type: none"> ・ガラシャ祭などの地域行事に参加で、地域の方々との触れ合いも大切にしている。 ・今年は長岡天満宮にてユニットから3名の方の書道が展示される。 ・1月18日、地域のボランティアにより新年の集いを施行し、和みの和となる。 ・「地域との融合を図る」という理念に基き、継続した暮らしの個別対応を試みている。 ・毎週日曜日の教会の送迎援助 ・近所のショップへ毎週TVガイドを購入に出かけるが、昨年7月末でショップが閉店となる。 ・近所のクリーニング店とも顔見知りになり、地域の方に支えられている。 ・四季を通じ花見や紅葉狩りに出かける。 ・近隣の散歩は気候と入居者の体調に合わせて実施している。 		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月リーダー会議及びユニット会議を行ない、お一人お一人のその人らしく生活ができるように理念に基づき、管理者スタッフ全員が実践に向かって日々取り組んでいる。 		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・2ヶ月に一度の広報誌の発行で、日常生活を家族に伝えると共に面会時には援助計画や評価をする。 ・運営推進会議では、ご家族や地域の方に参加してもらっている。 		
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃からの関わりは自然的に行っている ・近所の方から野菜等頂くこともよくある。 		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に幼稚園の訪問を受け、合唱や交流をすることでみなぎるエネルギーを頂いている。 ・氏神様には初詣や行事を通し、またガラシャ祭や夏祭に参加頂くなど、活発なお付き合いを大切にしている。 		

グループホーム西山の郷(ぼたん)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>・行政の地域支援事業の認知症養成講座においては、講師派遣や実習生受け入れ、障害者の実習受け入れなど積極的な地域貢献をしている。その中で、地域の人の関わりが増え、利用者にとっても活気に繋がっている。ボランティアに来てくださる方もある。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>・スタッフそれぞれが自己評価を実施し、自らを振り返り気づきを大切にしている。また、外部評価の項目を全員で取り組み、会議で共有している。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・2ヶ月に一度運営推進会議が催され、ユニットの現状報告後、意見を頂きサービスに活かす。 ・今年は夏祭前に家族会が持たれ、ご家族のご意見や要望等を聞かせて頂き今後の支援に活かしていく。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・行政や地域包括支援センター、または社会福祉協議会など関係機関との連携は多い。それぞれの担当者とは、地域行事に参加する中であったり、顔と顔の見える関係性の中で、ざっくばらんに相談しあっている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>・成年後見制度や地域福祉権利擁護事業の研修会で学んだことをユニット会議で共有した。 ・成年後見人制度利用については、ユニットの中で1名の方が活用されている。(その方は昨年11月末に転居される)</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>・ユニット会議で、西山の郷にある高齢者虐待防止マニュアルに沿って、スタッフ全員が読み合わせを行うと共に、身体及び言葉の虐待について議論をし、利用者の気持ちの尊重に努めている。また、家族の思いや意見も積極的に取り入れている。</p>		

グループホーム西山の郷(ぼたん)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

グループホーム西山の郷(ぼたん)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・ユニット内での研修の場を設け、外部研修報告やユニット内におけるケアの疑問点、利用者の病気に関する研修、共有でケアの充実を図っている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・乙訓地域のグループホーム連絡会が昨年に発足し、研修会や会議を通して、勉強会だけでなく、相談しあったり、交流を深めている。相互訪問については、事業所間で実行し、研修体系に組み込まれている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・年2回の「職レク」を通しストレスを発散できる場所を設けている。 ・社内の福利厚生やセレクトプランなど活用している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・自主的に研修に参加できるように勤務体制の調整を行う。 ・また研修に参加した者はユニット会議で報告しスタッフが向上できるようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・初期面接を管理者とユニットリーダーが行い、記録に残している。その中で、今までの生きがい活動や趣味、環境など継続できるように努めている。 ・その人らしく生活していただくためにご家族と話し合いながら安心できる環境作りに努める。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・ご家族の思いを汲み取り、困っていることや今後の不安を受け止め、利用者のご家族にとっての良き方向性を話し合い安心に繋げる。		

グループホーム西山の郷(ぼたん)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス 利用も含めた対応に努めている	・入所当初の淋しさ、不安等、精神面での配慮と安心できる場 所であるための工夫をする。 ・今までと変わらない生活であることを認識して頂くために、無 理なく日常生活になじんでもらう。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	・生活が馴染むまで、傾聴を重視し、どのような性格であるか、 何がしたいか、何ができるかを見極め、違和感なく他者の輪 の中に入れるように配慮していく。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている	・人生の大先輩であり学ばせてもらうことの多い時であり、本 人を尊重しつつも不安や焦燥感などの気持ちを共有し、でき ない所をさり気なく支えていく関係を築く。 ・共に人と人としての人間関係を深めていく。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えて いく関係を築いている	・家族の気持ち、思いを傾聴し、心を共有した上で一緒に本 人を支えていく関係を築く。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	・来所時、リビングや居室を使用してもらい気兼ねなく触れ合 える場所を提供する。 ・近隣の喫茶店に出かけられたり、旅行や外泊も自由に出か けられることもある。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	・趣味を通じての友人の来所もあり、居室で楽しまれる。 ・馴染みの電気屋さんとの交流も持続している。 ・外泊され、行きつけのパーマ屋さんや歯科の利用は個別対 応している。 ・毎週日曜日の教会へ送迎をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合え るように努めている	・生活の流れに沿って掃除、食事の準備、洗濯たたみ等、 各々のできることを分担し共に支えあえるように配慮してい る。 ・共同作品を作成することにより、他者同志が意外な発見を し、人間関係の向上に役立っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・退去された御家族がボランティアなどで関わってくださったり、知人を紹介したり見学につれてこられるなど、関係性は続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日常のコミュニケーション活動、行動の中から、一人ひとりの希望や思いを把握する。 ・またユニット会議を通じ、スタッフ全員が一人ひとりの状況を把握する。 ・コミュニケーションやスキンシップを通じ、表情や醸し出される雰囲気の中から、利用者の満足度を知る。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・事前調査で把握する。入所後もご本人や家族から折にふれ聞き取り、記録に残す。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・バイタルチェックと必要に応じた水分摂取量、排便チェックを行い、日々の心身の状態の把握と共に日常生活の流れの中でも心身状態の観察、及び洞察にて細かいことも把握して記録する。必要に応じて1日4回バイタルを行い、かかりつけ医に報告し、指示を仰ぐ。 ・心身状態に即したケアを提供する。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・本人らしく生活を送るためにいろいろな視点から見つめ、意見交換した上でスタッフ共通のケアができるように生活援助計画に折り込んでいく。 ・家族、本人の希望や意見も取り入れた生活援助計画を作成している。	○	年々介護度が上がり重症化することにより、ユニット合同で何かをすることがむづかしくなり、個別ケアになりつつある。ユニットを超えた仕組の必要性が考えられる。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・3ヶ月に一度援助計画を家族本人の希望を取り入れながら作成するが、細やかな変化は月1回の会議で微調整をしながら、その人らしい生活が送れるように支えていく。大きな変化が生じたときはその都度モニタリングして生活援助計画の見直しをする。		

グループホーム西山の郷(ぼたん)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の利用者の言葉、背景から読み取れる利用者の状態を把握し、ケース記録に残し、それを元にアセスメント・モニタリングをして記録に残し、次の援助計画の基本的なマネジメントをしている。	○	一ヶ月又は一週間単位で一目でわかる不穏時や体調不良のグラフ化を行ない、そこから見えてくるもの、ケア実践の結果等を把握し援助計画にもり込んでいく。(センター方式一部導入)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・居宅介護支援事業所とヘルパーステーションを併設しており、情報の共有化の中で、福祉用具や介護用品の相談や入院時の応援などしてもらっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・月に2度、絵の会や書道の会などボランティアさんに来てもらい充実した時間を過ごしている。 ・月に一度ボランティアの美容師さんが来て下さり、美容整容を行ってもらっている。 ・避難訓練は年2回、消防署に協力願って実施している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・生活しづらくなった要因の中で、必要に応じて、ケアマネと相談し、福祉用具を取り入れたり、情報の中から地域への社会資源を活用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加してもらっているので、ケアの状況や地域性を共有し合っている。 ・利用者の代理人関係など詳細もよくわかってもらい、権利擁護(通帳管理や金銭管理など)について、常々相談している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人及び家族の希望により、なじみの医師がかかりつけ医にたっており、2週間に一度訪問診察、またはご家族と受診に出かけられる。 ・24時間在宅診療療養管理の契約をとっておられる方がユニットで3名いる。		

グループホーム西山の郷(ぼたん)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・京都大学附属病院の専門医や地域の専門医に施設管理者を通じ相談している。 ・地域では認知症ネットワークが展開し、医療関係者と共に、認知症サポートの専門性を高めている。 		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ医、医院の看護師と相談することもある。 ・4月より訪問看護師が月2回入るようになり、気になる事などを相談しながら支援している。 		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	<ul style="list-style-type: none"> ・ご入居者が入院されるとできるだけ早期に退院できるようにご家族を共にはたらきかける。 		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時、ターミナルについて、本人、家族の思いが記録されている。 ・必要に応じ、医師、家族、スタッフとの話し合いがなされ統一した支援をしている。 	○	ターミナルに関しての個人の尊厳が活かされその人らしい最後を迎えるためにスタッフが統一した意識になるために、勉強会の必要性を強く感じている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	<ul style="list-style-type: none"> 本人や家族の意見を重視し、主治医の意見を聞きながら本人らしい終末を迎えられるようにスタッフ全員、家族と共に取り組んでいる。 		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人やご家族との話し合いの中で、「西山の郷」で最期を迎えるという意味確認をしている利用者が全員であり、住み替えを望む方は現在はいない。 		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・プライバシー保護に関しては教育体制で徹底を図ると共に日常的にスタッフ相互に注意をしよう。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・出前をとる際、自分でメニューを選んでいただく。 ・日常生活の中で生活に沿って、食材切り、掃除、レクレーション等本人の意見を聞き、参加して頂いている。 ・洗濯干しや洗濯物たたみに関して自主的に行って下さる利用者さんが多く、皆さんにして頂けるよう配慮している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・趣味に生きがいをもつ利用者に意欲を駆り立てる言葉やアドバイスを行う。 ・会話が成立しない利用者の場合、態度や仕草から何がしたいのかを模索し、希望に沿えるよう支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・自宅に帰られ、なじみの美容室でパーマをかけてこられる利用者もいる。又、家人同行し、なじみの美容室に出かけられる方、月一回のボランティアさんによるカット行う方、様々である。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・体調により粥にしたり固い物は刻み食にするなど配慮しつつ見守りの中、食事についてももらう。 ・食材とりに出かける人、食材を切っていただく方、台拭きをして頂く方、味付けをする方、配膳をする方など様々であるが、できることを行ってもらい食事作りを楽しんでいる。 ・最近、むせや咳込む方が増えているため、大きな声を出し咽頭の筋肉を鍛えるパタカラ運動を取り入れている。 ・食事中、CDによる音楽を聴きながら、ゆっくり食事が出来るように配慮をしている。	

グループホーム西山の郷(ぼたん)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・おやつは好みを聞き出し、一緒に手作りする事もある。 ・食べたいおやつを近くの店に買いに行く。 		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄の失敗時、排尿排便が出たことを共に喜び合う。 ・水分摂取量のチェックと、置かれている環境を考慮し対処していく。 ・重度化になってもパッド、リハパンの使用は基本的には使用せず、必要性が出た場合にはご家族と相談する。 ・トイレリードの回数を増やすなど、極力失敗のないように配慮している。 		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・季節により菖蒲湯、ゆず風呂等楽しんでもらう。 ・本人のタイミングや希望時に入浴を楽しんでもらうように支援している。 ・湯舟につかり、リラックスできるように配慮している。 		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・入床準備時に環境を整え、安心出来る声かけを行う。 ・夜間トイレリードする場合、時間を見計らい行っている。 ・日中メリハリのある生活をし、夜間熟睡できるように配慮する。 ・体調を考慮し、日中横になってもらうことある。 		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・重度化し、以前のように多種に渡り役割をこなせなくなるが、残された機能でスタッフと共に行ない満足感、充実感を味わっていただく。 ・ドライブやベランダ食を行い気分転換をはかる。 ・固定したTV体操をやめ、歌いながらオリジナル体操に切り替えることで、楽しく身体を動かすことができ、参加する人数も増え、笑顔や笑い声も増え、楽しみの一つとして定着している。 		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・お一人の利用者の方がご自分のお金の管理をされている。 ・他の方はおこづかいを預かり、必要に応じて購入している。 ・金銭管理ができない利用者さんに関してご家族さんと相談の上、金銭を持っていただく事で安心を得ている。 ・22年1月より一部はお預かりすることになっているが、お小遣いの管理は今まで通り管理されることとなる。 		

グループホーム西山の郷(ぼたん)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・体調低下により希望に添いながら近隣の散歩支援を行う。 ・ドライブ・買い物に出かけることもある。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・遠方外出、紅葉狩り、お花見等、野外で楽しく過ごす行事もある。 ・家族旅行に出かけられる利用者もある。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・携帯電話を所持している方が2名ある。又、FAXを通じ、ご家族とのやりとりをされている方も1名ある。(この方は11月に退所される) ・近くに郵便局があり手紙を出している方もいる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・家族、友人、知人等いつでも訪問出来、楽しい時間が過ごせるよう配慮している。又、近くの喫茶店に家族と出かけるのを楽しみにしている利用者もいる。 ・共有スペースであるリビングで家族との交流を持たれる方もいる。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体的拘束等はいっさいしない生活である。 ・利用者さんが安全に行動できるように拘束はせず、本人の行動に応じ、職員が見守り、必要に応じ介助する。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・外出や外泊時、本人が鍵をかけて出かけることはある。又、長時間居室不在にする時、本人が鍵をかける。スタッフが鍵をかけることはない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・利用者さんの所在確認の徹底を行ない、居室にて過ごされている時間が長い時は訪問し、安全の確認を行っている。 ・外出時は必ずスタッフが同行する。(転倒防止、徘徊防止)		

グループホーム西山の郷(ぼたん)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・釘、挟み、カッター使用時は必ずスタッフが見守りの中行う。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・転倒防止の為、杖・歩行器・手すり使用の声かけ及び見守りを行う。 ・異食のある方もあり、周囲に小さなものを置かない。 ・ヒアリハット、事故報告書の記入により再発防止に努める。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・ユニット会議時、30分ほどの研修時間を設け、全員が応急手当や初期対応ができるように学ぶ機会を設けた。 ・普通救命講習会に参加し、修了証を持つスタッフが多い。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・年2回の災害避難訓練があり、夜勤帯、日勤帯の訓練を行ない、共に利用者も参加し、スムーズに避難できるように工夫している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・一人ひとりに起こりうるリスクに対して、ご家族に説明し、ご理解を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・様観する場合、申し送りを徹底し、全スタッフが共有する。 ・急を要する場合、リーダーや施設長に連絡後、訪看やかかりつけ医に報告し指示を受ける。また家族へ連絡する。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬の変更・増量・減量時、申し送りを徹底する。 ・内服・服薬の確認及び管理票にサインをし徹底している。 ・処方日、残薬の確認を行い、間違いの無いよう徹底している。		

グループホーム西山の郷(ぼたん)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・バイタルチェック表に排尿、便のチェックを入れ管理している。又、水分や運動、繊維のある食物の摂取の工夫をしている。 ・下剤による排便コントロールしている利用者もいる。 		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・起床時、入床時、毎食後口腔ケアを施行している。出来ない方に関しては介助をし一緒に行う。(チェック表で確認をする) 		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養士による献立が作成され、自由に献立変更も入れながら調理をする。各々摂取量のチェック、水分チェックを記入し、健康状態を把握している。 ・食事摂取量の少ない方(体重減少にある方)は、主治医と相談し、補助栄養食品を使用する場合もある。 		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	<ul style="list-style-type: none"> ・外出よりの帰所時、手洗いうがいの施行、及び面会の方にも玄関で手洗い・うがい・館内マスク使用をお願いしている。 ・ノロに対してはフロアの床、手すり、ノブ、トイレはハイターにて消毒する。共有食器はハイター消毒をする。 ・今年は新型インフルエンザの流行もあり、規制のきつい時は外出予定者も中止して頂くなど対処している。 		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・食品安全管理が徹底され巡視もある。 ・毎日使用するまな板、ふきんは煮沸消毒、三角コーナーの消毒はハイターか煮沸消毒を毎日施行。キッチン内の扉は、冷蔵庫周囲は、2日に一度中性洗剤で洗浄後、アルコール消毒をしている。 ・食器の残り物は毎回処分し、賞味期限の確認を行ない食品の安全に気を配る。 ・共通の食器は一日一回以上、ハイター消毒している。 		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ホーム周辺に花が植えてあり、明るい雰囲気になっている。 ・中庭にベンチ、ガーデニングが施行されている。 ・玄関に生け花、観葉植物が置かれている。 		

グループホーム西山の郷(ぼたん)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・リビングに利用者の描いた季節感のある絵やお習字、共同作品を展示してある。 ・利用者と一緒に季節の花やプランターで野菜を作り、癒しの空間作りを行っている。 ・季節に応じ、干し柿作りや漬物作りを、利用者と共に行っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビングではソファが設置され好きな場所で過ごせるようになっている。 ・二間の居室の利用で寝室以外の部屋で気が合う利用者さん同士、お茶を楽しまれたり、歌を歌ったりと自由に過ごされている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・今まで使用されていたなじみの家具や趣味の道具、生活必需品など持ち込まれ、利用者が安心して生活できる空間をご家族と共に作り上げていく工夫をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・起床後は退室してから窓を開閉する。 ・冬場の乾燥に対して加湿の工夫を行っている。 ・共同場所やリビングにおいては、掃除のとき窓を開け、加湿器・空気清浄器を使用し調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・廊下、トイレ、浴室、居室入口に手すりが設置されている。 ・骨折して手術後、退院に向けてはご家族と共に居室環境を整え、安全に自立生活ができる工夫をした。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・トイレ、浴室、居室にプレートをかける。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・ベランダで食事やオープンカフェなど利用すると共に洗濯干し場として活用する。 ・自由に出入りしてもらい新鮮な空気を吸い、活力を得られる場所となっている。 ・裏の畑の収穫も楽しみの一つである。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホーム西山の郷(ぼたん)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

①ユニットが6名であり、少人数による家庭的な雰囲気と和やかな雰囲気でゆったりとした生活をしている。